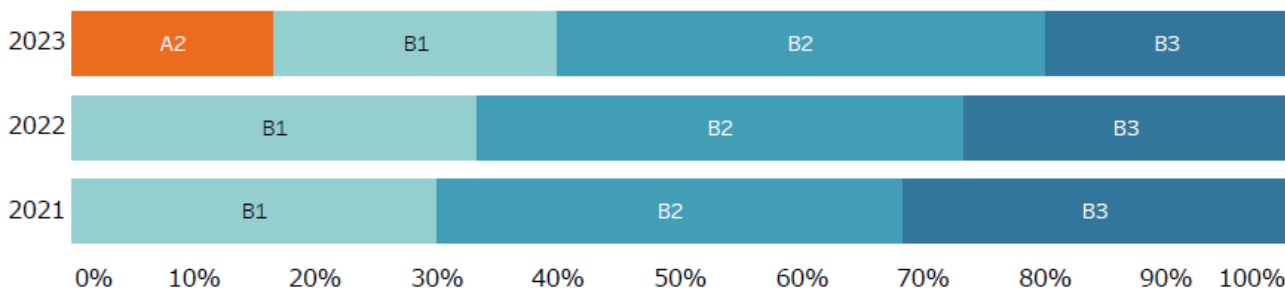


2023年 麻布 算数

過去3年の思考コード別出題割合は次のようになります。2022年と比べてA2が増えています。特に、大問2、大問3、大問5は(1)と(2)の難度差が大きいいため、(2)を後回しにする判断が必要でした。



麻布ではめずらしい「ニュートン算」が大問1で出題されていました。他は、「平面図形」「食塩水」「立体図形（積み木を調べる問題）」「数に関する調べる問題」でしたが、麻布の頻出分野の1つである「速さ」の出題がありませんでした。

前半の平面図形、後半の立体図形（積み木を調べる問題）で時間がかかってしまい、最後の問題に時間を確保できなかった受験生が多かったと思います。例年、書き出して調べて規則を見つけ、見つけた規則を活用する問題が最後に配置されています。今年も同じでしたが、例年と異なって規則を見つけやすいため、取り組みやすい問題でした。前半の取り組みづらい問題を後回しにして、大問6にどれだけ時間を費やせたかで差がついたと思います。

大問1のニュートン算は、確実に得点しておきたい問題です。大問2は、正八角形の分割を利用する問題でした。(1)が(2)の手がかりとなっていますが、手が出なかった受験生も多かったと思います。後回しにしてよいと思います。大問3も平面図形からの出題でしたが、こちらは、円の折り返しでした。角アの大きさは気づきやすいと思いますが、「周の長さの和」は、ハードルが高かったと思います。ここも後回しにして、後続の問題に時間を費やす方がよいと思います。

大問4は、麻布で定期的に出題される食塩水の問題でした。全体の中でも取り組みやすいため、大きな得点源となる問題です。大問5は、操作に従って積み上げた立方体のブロックを取り除いていきます。(1)は、得点しておきたい問題です。(2)は、ハードルが高く、自信を持って解答しづらいと思います。こちらも後回しにしてよいと思います。大問6は、麻布で頻出の数をテーマにした調べる問題でした。今年、例年と比べて取り組みやすい問題でした。(1)は書き出すことで、すべての整数を見つけることができます。(1)で見つけた規則を利用して、(2)は8周期で1周すること、(3)は4周期で1周することがわかります。(4)もここまで調べた情報を利用して答えを見つけ出すことができますが、時間との勝負だったと思います。

平面図形、立体図形に時間を取られてしまった受験生が多かったと思います。大問6は、落ち着いて取り組みれば得点しやすい問題でした。大問6に時間を使えたかがカギとなります。あくまでも予想ですが、大問2(2)、大問3「周」、大問4(3)、大問5(2)、大問6(4)を落としたとしても、およそ6割5分程度には達することができると考えられます。